

市立プールのあり方について

市では、老朽化が著しい市立プールの効率的な更新について検討を行っていましたが、これまでの検討概要及び現時点における基本的な考え方をお示しいたします。

1 すべてのプールを今後も維持する場合の費用

座間市の市立プールは、10箇所すべて屋外プールで、設置後40年から60年が経過しておりますが、今後、すべてのプールの大規模改修を行いこれまでどおり利用開放を行った場合、耐用年数40年で試算をすると10箇所で約58億円かかります。ただし、夏季期間のみの施設利用となります

2 気温の上昇による影響

近年の地球温暖化により、以前と比べて気温が上昇しています。

気象庁のデータでは、1976年8月の平均気温が24.9度であったのに対して、2024年8月の平均気温は29.3度と約5度上昇しています。

このようなことから、他の自治体では、水温が高過ぎたりしてプールが開場できなかったり、プールサイドで火傷を負う事例なども見受けられているようであり、屋外プールの利用開放が難しくなってきています。

3 屋内プールを設置する場合の経費

既存のプールと同等規模の屋内プール（25m。鉄筋コンクリート平屋造り）の整備費（土地購入費除く。）は約10億円程度と言われており、ランニングコストは年間1億円程度と見込まれます。

現在は、屋外プール1箇所あたりの経費が約1000万円となっておりますが、7月下旬から8月末までの短期間の開場であり、年間を通じて開場できる屋内プールと比較した場合、必ずしも屋外プールが経済的であるとは言い難いと考えます。

4 今後の基本的な方針

さまざまな方向から検討を行い、総合的に判断を行った結果（表1参照）、プールの数は縮減しつつ、機能強化を図ることで幅広い層の利用が増加すれば、行政サービスの向上と

事業費の効率化が図れるものと考えます。

このようなことから、既存の屋外プールについては、現在休場しているプールを中心に用途廃止をして経費節減を図るとともに、将来的には、市内に１～２箇所の屋内プールの設置または民間プール活用などの検討を続け、その方向性については、令和１１年度までにお示しいたします。

表１） 検討比較表

	廃止	全部更新	集約更新	長寿命化	大規模修繕
老朽化対策	◎	◎	◎	×	×
公共サービスの質	×	◎	◎	△	△
社会情勢対策	×	◎	◎	×	×
イニシャルコスト	◎	×	○	×	×
ランニングコスト	◎	×	◎	△	△
ライフサイクルコスト	◎	×	◎	△	△
将来性	×	◎	◎	△	×

◎＝最適、○＝適している、△＝現状維持、×＝適さない